

発行日：平成27年10月20日

発行者：まちづくり市民会議事務局

大きく育て！

事業のたね

2

課題×アイデア = 誇れるふるさと



<対象>

働きかける対象、ターゲット

<意図> 9年後に...
対象がこんな状態になって欲しい
対象をこんな状態にしたい

5-2 高齢者福祉・介護の充実			
対象	高齢者(65歳以上)	意図	生きがいをもち自立した生活ができる
課題	解決策	事業のたね(アイデア)	
老人クラブの閉塞化 老人クラブに活気がない 若年人口の減少 高齢化率が高い 若者が行事に出ない 目指すもの? 気軽に出会い、対話できる場(機会)が少ない 健康づくり、認知症予防ができる場(機会)が少ない 広域化 全老人層対象の活動組織 自治会の連合体 お金・財政 補助金に頼っている	指導者の育成 指導者を増やす(ノウハウ) 会員以外も参加できる 価値ある活動 働き盛り人口の誘引 話をしたり、参加する機会を増やす 予防教室+雑談・相談 地域公民館等の活用 多くの人が参加できるようPR 地域ぐるみで取り組む(CSOの協働化) 補助金の有効活用	指導者の研究集会(老連・行政) 子育てしやすい地域づくり(定住補助金) 協働事業補助 コミュニティーソーシャルワーカー支援事業 同好会育成補助(老連・体協・文連) 移動手段 委託事業費・人件費活動費へ	
成果指標(こうなったら成功!)			
高齢化率20%未満	老人クラブ会員増加 5年で400人増	老人クラブ同好会 3年で5クラブ増	
高齢者の学習機会の増	自治連合会ができる	校区ごとに協議会設立	
何らかの活動に参加している方 %	孤立している高齢者 %	計画策定(課題と取組の共有)	



施策ごとに
事業のたね(アイデア)を
出させていただきました。

4-3 生涯学習の充実			
対象	市民	意図	目的を持って、継続して自発的、自主的に生涯学習に取り組む 学習成果を人に教える(地域に還元する)ことができる
課題	解決策	事業のたね(アイデア)	
発表の場 対外的な活動(発表)が少ない 開かれた生涯学習の場をつくる 情報発信の場づくり 文化センターをオープンに活用 文化センター利用率が低い どんなサークルがあるかわからない 気軽に集えてニーズを語り合える場が少ない コーディネーターの設置 多様な生涯学習の場 ニーズに合った講座の開設 サークル同士の交流 人材バンク 人材を眠らせている スキルを持った人を知らない 教え側・教わる側の人員不足 図書館の有効活用 休みをずらして欲しい	発表の場づくり(新しいカタチ) ・人が寄り付きたくなる ・会いたい人がいる ・私の居場所となる ・わくわくするものがある ・食べたいものがある ・困った時にちょっと話せる人がいる ・お金がかからない ・活動が見える サークル一覧表の作成 新しい価値観を生み出せる人材配置 小城館・三日月館の休館日をずらす	生涯学習活性化事業 交流の場設置事業 コーディネーター設置事業 人材登録事業	
成果指標(こうなったら成功!)			
人材バンク登録者 増加	人材バンク派遣回数 増加	各種講座の参加人数 増加	
サークル加入者の増加	わくわくする生涯学習ガイドブックの発行	参加者から担い手になっていく	



真剣な表情で課題に取り組む参加者の皆さん

第7回 プログラム

- 1 開会・あいさつ
- 2 前回の振り返り
- 3 グループ分け
- 4 事業アイデアづくり
- 5 成果指標づくり
- 6 閉会

第2次小城市総合計画に市民の皆さまの意見を反映するための「まちづくり市民会議」も残り2回となりました。10月14日(水)に第7回の「まちづくり市民会議」を開催し、参加者は、市民と職員あわせて31名でした。

市民に関係の深い15施策のうち、前回8施策を検討していただきましたので、今回は残りの7施策について話し合っていました。

前回の経験があったため、今回はスムーズに話が進んでいるようでした。各委員の知識や思いがどんどん事業のたねとなって溢れてきていました。

最後に成果指標を考えましたが、「9年後にこうなったら成功!」ということで、市民の皆さまがどのような未来を考えられているかがよくあらわれていて、小城市の方向性を示した指標となっています。

次回、第8回の市民会議で最後になりますが、市民と行政の役割分担などについて考えていただく予定です。

(会議の進行：十時裕さん・辻桂子さん)

施策	1-2 居住環境の充実		
対象	市民	意図	快適な居住環境で暮らせるようになる
課題	解決策	事業のたね(アイデア)	
マナー・モラル ごみの不法投棄・ポイ捨て 水路の水質悪化 ベット問題 地域の連携 地域の連携(意識改革) 高齢者の環境整備力不足 (周囲のサポートに対する理解不足) 居住地の集約 農地の集約化 都市集約(コンパクトシティ)地域 環境整備活動の限界	ごみ処分を民営化 ごみ処分の簡易化 罰金(罰則)制度 ごみ問題の周知 モデル地域設定・紹介 地域ごとの講習会 近隣住民とのコミュニケーションの場づくり 地域コミュニティ(情報交流) 農業団体の法人化 区画整理 空き家・空き地に係る金銭負担の軽減 (他人・法人に渡しやすい)	地元へのマナー・モラル講習 モデル団体の設立 モデル地域の創設	
成果指標(こうなったら成功!)			
不法投棄発生件数 住民満足度 向上 空き家・空き地 減少 団体の設立数 増加 講習会参加人数 増加			



施策	3-2 歴史・文化・芸術の振興		
対象	市民及び市外の利用者 市内の文化財	意図	小城市の歴史・文化・芸術に関心を持って、歴史・文化・芸術活動に取り組む 保存・活用する
課題	解決策	事業のたね(アイデア)	
後継者・指導者不足 歴史・文化を伝える人が少ない 指導者・コーディネーターが少ない 継承者が減少している 言い伝えが受け継がれなくなっている PR不足 地区外の人への宣伝不足 地域行事への興味不足 地域行事への参加者の減少 郷土歴史の学習機会の減少 開拓・発掘 歴史の発掘文化の意識化	小さい頃からの歴史教育 子ども・学生を巻き込んだ活動 学校での学習 指導者の養成 展示・継承等PRの機会を増やす 他の地域との交流 地域の歴史発表会 文化・歴史の勉強会 (コミュニケーションの促進) 地域をぶらぶらして新しいことを発見する	小中学校で地域の歴史文化学習 小学校で歴史を調べて発表会 放課後児童クラブで歴史・文化・芸術指導 地域の中に歴史・文化を知ることができる場所をつくる 歴史の現地説明会 伝統芸能発表会	
成果指標(こうなったら成功!)			
お祭り等への参加者 増加 文化財の利用(活用)回数 増加 歴史・文化・芸術の知識の向上 歴史・文化・芸術活動に参加した人数 増加			

施策	1-5 循環型社会の形成		
対象	市民	意図	4R運動に取り組む
課題	解決策	事業のたね(アイデア)	
知識不足 分別ルールを理解していない 循環が理解できていない 世代間のギャップ 意識の低下 4R運動に取り組んでいない 住民(消費者)の意識が低い マナー 不法投棄が多い ごみ焼却費用がかかる そういう時代 使い捨て商品が多い 包装の方法・大量生産	子どもの頃から環境教育(学校でも)(今より強化) ルールの簡素化 4Rしなかったらどうなるか将来像を見せる(危機感) 地域全体で取り組む ごみ拾い 新技術の開発 使い捨て商品を減らす 生産者の発生抑制	4Rリーダーの育成(小学校) 表彰制度 地域・商品券など事業者・税の減免 新技術開発援助事業	
成果指標(こうなったら成功!)			
10万トンのごみを減らす 4Rに取り組んでいる市民の割合 80% エコバック使用率 70% ごみの焼却費用の減少 循環型社会の確立 飲食店等からのごみが減る			



施策	2-2 交通安全の充実		
対象	交通安全の充実	意図	交通事故を起こさない
課題	解決策	事業のたね(アイデア)	
認識不足 事故の認識不足 他人への配慮不足 スマホの利用増 運転マナーの欠如 危険運転・飲酒運転 スピードの出し過ぎ 交通マナーが悪い 道路の不備 通学路に歩道がない 危険な道路がある 親の危機管理ができていない 子どもの事故が多い	交通事故の危険性を伝える 学校・家庭での指導 子どもへの教育(交通教室) 事故の疑似体験 交通違反への厳罰化 取り締まりの強化 危険箇所の確認 通学路の整備 側道ラインの整備	交通安全教室 年3回(保護者含む) 警察官参加で疑似体験 交通安全マナー教室 (民間保険会社) (車・バイクメーカー) 交通安全指導員による巡回指導(行政区) ドライブレコーダー設置補助 生活道安全整備事業 (道路パトロールと補修)	
成果指標(こうなったら成功!)			
市内での死亡事故 0 交通安全運動への市民参加 30%以上 自転車事故 10%減少 交通事故件数が対前年比マイナスになる 県内事故率ワースト1(事故が起こらない)			

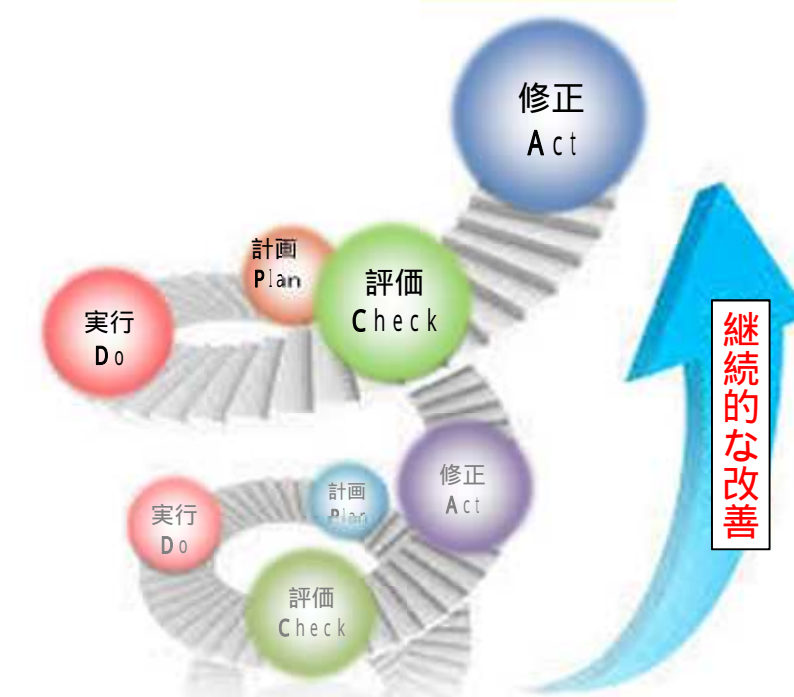
誇郷幸輝

総 合計画は毎年評価をし、**改善**します!

その評価をするための指標が「成果指標」です。

成果指標 = 目的(意図)の達成度を把握するための指標

このニュース内の「成果指標」は、市民会議で出された意見であり、実際の「成果指標」と異なる場合があります。



施策	4-1 健康づくりと生涯スポーツの充実		
対象	市民	意図	健康に関心を持って、継続して健康づくりに取り組む
課題	解決策	事業のたね(アイデア)	
きっかけづくり ストレスが発散できていない 人とのつながりが不足している スポーツをする機会の減少 健康を見直すことが必要 仲間づくりが必要 健診受診 早期発見・早期治療 受診率の向上 現状を知ることが必要 意識改善 健康への関心の低下 自身の健康状態に無関心 意識づけが必要	グループ・サークルの情報発信 情報公開(紹介) 健診を楽しみにさせる(インセンティブ) 健診にはまよわず行く(人目を気にせず) 健診の義務化 自分通信簿(健康状態の資料配付) このままだと... 健康レベル	サークル活性化事業 スポーツチーム紹介(市報) 健康教育(健診教育) 受診後特典事業 健康カード交付事業	
成果指標(こうなったら成功!)			
市報の紙面確保 健診受診率の向上			